



## 新生柏の葉花卉研究室のご紹介

花卉園芸学研究室修士課程 2 年

黒 沼 尊 紀

柏の葉キャンパスに花卉園芸学研究室が新設されてから、あっという間に一年が過ぎました。今ではキャンパス近くの大型ショッピングモールも、自分たちの庭のように作業着と長靴のまま胸を張って歩いています。そんな柏の葉キャンパス花卉研究室の日常をご紹介します。

### 柏の葉キャンパス花卉研究室とは

千葉大学柏の葉キャンパスとは、正式には千葉大学環境健康フィールド科学センターを指し、「環境・健康・食」をキーワードとして、園芸学、教育学、薬学、看護学、医学など学際的に持続的社会的創生に関わる研究を行っている教育研究センターです。当センターの広大な農場では、花卉・果樹・野菜・作物等を生産しており、学部1～3年生の実習が行われています。センターに在籍する学生は、渡辺先生をはじめとする花卉・苗生産部の教職員、技術職員に日頃よりご指導頂いており、花色、系統地理学に加え、緑化、花の香り、機能性植物など幅広い分野の研究を行っております。

### 実践的技術教育 ～利益はいくらなのか？～

松戸キャンパスの花卉研究室と柏の葉キャンパスの花卉研究室の大きな違いとしてあげられるのが、定常的に行う学生共同作業の内容です。松戸キャンパスでの共同作業は、草刈りやハウスの修復など、自らの実験圃場の維持管理が中心でしたが、柏の葉キャンパスでは、『高度化セル成型苗生産利用システム』を利用した実践的技術教育を受けることができます。播種～出荷までのすべての生産工程について実技を通して学ぶだけでなく、学生自らが品目を決定し、栽培計画を立て、人件費、資材費の算出など収益性についても検討を重ねています。大学の授業の多くは、植物の生理生態や最先端研究・技術についての情報が多いのが現状ですが、そのような知識を利用しながら植物と向き合うだけでなく、座学では学ぶことのできない収益性や出荷方法等について、経験を通して学んでいます。知識と経験が結びつくことで、自らの力量の向上に繋げ、その経験がさらに研究活動へのアイデアや刺激となっています。

### 園芸学+α ～様々な視点で～

柏の葉キャンパスでは、トウキ・ヨモギ・オタネニ

ンジンなどの機能性植物についての研究を行っているため、薬学との交流があり、合同ゼミや交流会を行っています。領域の垣根を取り払うことで、薬学分野における園芸学の活用が可能となり、薬用植物の栽培法確立など、社会に対して新たな提案が行われています。柏の葉キャンパスはその理念と人数が少ないことから、比較的交流が多く、私自身も他の研究室の先生にご指導頂いています。また、花卉・苗生産部の取引先やOB・OGとの繋がりなど、大学内外において多くの方にご指導頂けることは、自分の知見を広め、より幅広い視野で物事をみる訓練になっていると感じています。

### 新たな花卉研究室のかたち

本稿では、柏の葉キャンパス花卉研究室の日常を主として報告してきましたが、松戸キャンパスとの交流ももちろん行われています。特に大学祭の花屋出店では、柏の葉で販売植物の生産をし、松戸で買い付けの検討・実施など、それぞれの長所を活かし、出店にむけて準備をしています。このように、キャンパスは違えども同じ花卉園芸学研究グループとして、一つの物事を協力して取り組む姿は、以前の花卉研究室とまったく違いはないのではないのでしょうか。

今後も花卉園芸学研究室の学生は、それぞれの学び場で「いかに自分を成長させるか？」を考えながら、時に協力し、励まし合い、刺激し合いながら勉学に励んで参ります。研究活動のみならず、より積極的に自分の力量を伸ばしていけるよう、まだまだ努力していきますので、今後も皆様のご支援・ご指導をよろしくお願い申し上げます。

